

# 行政視察報告書

1. 委員会または会派等 公明党議員団
2. 視察期間 平成24年11月28日 から 平成24年11月30日までの 3日間
3. 視察先 広島県 福山市
岡山県 津山市
山口県 宇部市
4. 視察項目 福山RDF発電事業
鉄道近代化遺産による観光振興
シティセールス事業
5. 参加者 (委員(議員))
大野哲也 平山伸二 三宅智加子 今村智津子 塩塚敏郎
(同行)なし
(随員)なし
6. 考察 別紙のとおり
以上のとおり、報告いたします。  平成 24年 12月 6日  報告者 <u>大野哲也</u>  大牟田市議会議長 殿

## 6. 考察

### 広島県 福山市

【人口】471,813人【面積】518,14km<sup>2</sup>【一般会計】1659,7億円

#### 視察事項 福山RDF発電事業

大牟田市では、RDF発電事業は平成29年度に事業計画期間が終了することから、その後の事業継続の可否について、福岡県と参加組合等との協議が始まったところであり、平成30年度以降の事業継続の可否については、福岡県その他の関係者とともに十分な検討・協議を行わなくてはならない大事な時期であり、大きな課題であります。そこで、同じようにリサイクル発電所を有する福山市を視察し、今後の参考にしたいと考え視察先として選定しました。

#### 23年度運転実績と決算の状況

RDF受入量【75,382t】 RDF処理量【74,816t】 発電量【114,248千kw】

売電量【94,849千kw】(所内で17%使用し、残り83%を売電している)

スラグ販売量【8,209t】(単価は約50円前後)

メタル販売量【709t】(市況では2,000円～10,000円で売買される)

営業収益【約21億3690万円】 営業費用【約14億2255万円】

営業利益【約7億1435万円】 営業外収益【約976万円】

営業外費用【約5995万円】 経常利益【約6億6415万円】

法人税等【約2億5900万円】 法人税等調整額【約413万円】

当期純利益【約4億102万円】

#### 委員の感想

- ・ 参画市町村は9市町で、分別・収集の統一化を図り、可燃ごみを7つのRDF製造施設で製造し、発電所に搬入している。発電所の処理能力は大牟田とほぼ同程度の314t/日で大変参考になりました。
- ・ サイロ貯蔵をすることによって、2か月運転して1ヶ月点検するというサイクルで運営されており、施設の安全確保と長寿命化にはよい方法ではないかと感じました。
- ・ 現在は非常に安定して運転されているとのことで、全国的に当初事故等の心配が指摘されていたが、時間の経過と実績を積むことで、ある程度の進化を遂げ、不安も解消されつつあるのではないかという言葉が印象に残りました。
- ・ 当初より搬入価格を1万2千円で設定されている点は、大牟田市が5千円から徐々に引き上げた点とは違いがあり、参考になりました。
- ・ 長期の計画運転と設立当初の参画自治体での協議が十分行われたかどうかという点でのちに大きく変わることを痛感しました。
- ・ 今後の大牟田市のRDF発電事業の在り方を検討する上で、大変参考になる施設を視察できたのではないかと感じました。

## 岡山県 津山市

【人口】105,860人【面積】506,36km<sup>2</sup>【一般会計】419,2億円

### 視察事項 鉄道近代化遺産による観光振興

大牟田市では、非常に貴重な炭鉱電車を4両所有しています。現在は、三井化学の敷地内に場所をお借りして特殊なテントの中におさめている状態ですが、今後、どのように活用していくのかは大きな課題となっています。また、大牟田市では、近代化産業遺産と人々の想いなどを価値あるものとして、次の世代に残し、さらには、まちづくりにも活用していきたいと考え、「近代化産業遺産を活用したまちづくりプラン」を策定しています。この中でも、活用の方法が課題として取り上げられていることから、鉄道近代化遺産による観光振興を実践されている津山市の取り組みを参考にするために視察しました。

### 旧津山扇形機関車庫の概要

津山の扇形機関庫は、昭和11年(1936年)に建設されました。全国でも現存している扇形機関庫はわずか13ヶ所だけです。奥行22.1mで17線あり、京都の梅小路に次ぐ全国でも2番目の大きさです。車輛の方向転換をするための転車台は、昭和5年(1930年)に設置され、現在も使用されています。現在は気動車を格納するためには使われてはいないようですが、2006(平成18年)年の津山線の落石事故により津山-岡山間が不通となった際に、高所作業が可能なピットがこの扇形機関庫以外になかったため、気動車の点検に利用されました。

### 主な取り組み

- ・ みまさかローカル鉄道観光実行委員会が主体となり、扇形機関車庫&懐かしの鉄道展示室見学会(年間約50日・約5000人参加)・スローライフ列車運行(春・秋4日間で約5000人)・鉄道グッズ製作・販売などの事業を実施している。
- ・ 旧津山扇形機関車庫・転車台・美作河井駅転車台が平成20年にJR西日本の登録鉄道文化財に指定され、JR西日本が保存活動に大きく舵を切ることとなり、全国からのお客さんが多くなってきた。(県外客比率は40%以上)
- ・ JR西日本が安全策の設置、トイレ改良、駐車スペース確保など協力していただく環境ができてきた。

### 委員の感想

- ・ 核となる人物がいることで、事業が飛躍的に推進できることを改めて感じた。
- ・ 小さな財産を大切に、いかに活用できるかを考える上では、大牟田市にとっても参考となる取り組みだと感じました。
- ・ 津山市の予算は100万から80万、そして60万へと削られていったが、多くのボランティアの方や、熱意ある協力者のおかげで、とても元気に楽しく推進していることに感心しました。
- ・ 熱意ある人の周りには、アイデアや協力者が集まってくるのではないかと思いました。大牟田でも適材適所での配置を考えねばと思いました。

## 山口県 宇部市

【人口】173,327人【面積】287,71km<sup>2</sup>【一般会計】620,9億円

### 視察事項 シティセールス事業

単年度2年連続の黒字決算となった本市にとって、今後どのようにして市全体の魅力を発信し、都市間競争に勝利していくかは大きな課題である。そこで戦略的に市の魅力を発信している宇部市の取り組みを視察し、参考にしていきたいと考え、視察先として選定しました。

### 取組みの概要

宇部市ではシティセールス推進本部を設置し、宇部市シティセールスパートナー制度なども創設して積極的に取り組みをされていました。シティセールスは、地方都市が自らのまちの特色や魅力などを他の地域や企業に売り込むことによって、その知名度や好感度を上げていくことを目的としています。しかしながら、単なる都市を売り込む宣伝活動ではありません。まちづくりの観点から、ヒト・モノ・カネ・情報等呼び込み、持続的な地域経済の活性化を図ることで、都市の新たな価値や文化を生み出すため、内外に働きかけ、外からの活力を取り込んでまちの魅力を更に向上させる一連の戦略的活動です。

### 具体的な取組み

- ・ 首都圏や県域等でのPR活動 首都圏のマスメディアに情報発信し、テレビ、新聞、雑誌、インターネット等の各種媒体で記事や番組として取り上げてもらうように働きかけるなど認知度拡大に努めておられました。
- ・ シティセールス推進体制の確立 推進本部を設置し、部局間の連携を図り、全職員がシティセールスパークソンとしてPRに努めていました。
- ・ 宇部市シティセールスパートナーの活用 ゆかりのある人などに登録していただき、情報発信していただいています。
- ・ フェイスブックによるPR イメージキャラクター「チョコクン」によるシティセールス専用フェイスブックページを開設し、地域の活性化を図っています。

### 委員の感想

- ・ 議会の質問がきっかけで推進本部が立ち上がったと聞き、驚きました。市長の姿勢で大きく地方行政は変わると痛感しました。
- ・ 愛着心を育てるという説明があり、大牟田でもその視点は、参考にしなければならぬと感じました。
- ・ まず取り組むという姿勢には感心しました。参考にしたいと思いました。